芦屋市議会議員
川上あさえ新聞
Vol.13
2023年春号

自民党芦屋市議団
〒659-8501
芦屋市精道町7-6
TEL 050-3395-5027
FAX 050-3457-4872

NeXT 芦屋

現場目線で市政改革

元産経新聞記者

学校内「いじめ」 アプリで匿名報告

議会で導入提案 不登校対策も

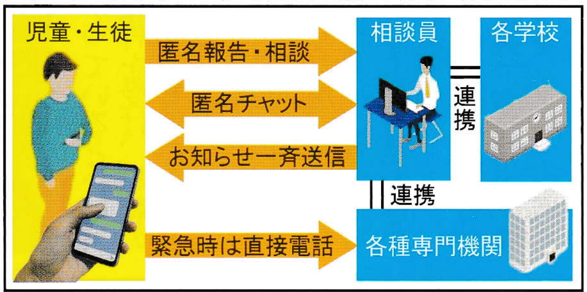
「いじめ」や「ハラスメント」の被害者や目撃者が匿名で報告・相談できるシステムを教育現場で導入できないか―。親や友人にも相談できない内容を学校側が把握するのは困難であることから、このような問題意識を持ち続けていました。本市の中学生の不登校率は7・0％（2021年度）と全国平均（5・26％）と比べても高く、深刻で、問題解決に向けた支援策としてスマートフォンアプリを活用した対策の導入を提案しました。

このアプリはスマホにインストールし、アクセスコードを入力することで利用可能。生徒はいじめの内容について文章や画像で匿名のまま教育委員会の担当者とやりとりします。生徒の名前は分からないが、学校名と学年を把握できるため、対象の学校と連携して問題解決を図ることができます。相談は、若者が慣れ親しんでいるメッセージアプリと同じチャット形式で行われており、校内にアプリ利用の啓発ポスターを掲示するなど、気軽に相談できる体制を構築しているといいます。

いじめは放置しているとエスカレートするため、早期発見が重要になります。このアプリはすでに尼崎市をはじめ全国30自治体で導入しています。

コロナ禍という状況を考慮しても全国平均を大きく上回る本市の不登校率の高さを放置するわけにはいきません。その要因は「無気力」など様々ですが、多感な子どもたちの心を伺い知ったうえで、抱えているストレスを軽減させる取り組みを真剣に考えるべきだと思います。今回の提案に対し、芦屋市の教育委員会は検討を開始しています。ぜひ導入を前向きに進めるよう促してまいります。

■いじめがアプリで匿名報告される仕組み



ごあいさつ

２０２２年末に閉会した第４回定例会は物価や原油価格高騰の影響を受けている世帯を支援する給付金事業や保険医療機関に対する支援事業、省エネ家電製品購入促進事業、妊娠子育て支援事業など総額約９億円にのぼる一般会計補正予算案などに加え、芦屋市役所の組織再編を伴う議案を審議、可決しました。今もって「第８波」と呼ばれる感染拡大が続き、インフルエンザとの同時流行も懸念されています。周囲を見渡しましても体調不良を訴える方々が相次いでおり、医療逼迫が起こらないよう注視する必要があります。

今回は一般質問や常任委員会の審議を中心に報告いたします。

非課税世帯に５万円を給付

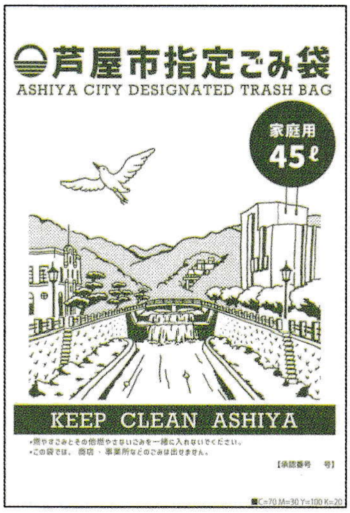
市議会は住民税非課税世帯に対する電力・ガス・食料品価格高騰に対する対策として１世帯あたり５万円を給付することを議決しました。補正予算額は約６億１５５０万円。

対象は２０２２年９月末時点の非課税世帯や家計が急変し同様の事情にあると認められる世帯。

また、それとは別に、妊娠出産子育て支援事業として今年度中に妊娠・出産した方々を対象に、妊娠届け出時に５万円、出生届出後に５万円を支給します。

芦屋川の美観 ごみ袋に

指定制度開始へ 新デザイン決定



芦屋市では４月１日移行開始、10月完全実施で指定ごみ袋制度を開始します。それに合わせてこの度、指定ごみ袋のデザインが決まりました＝**写真**。芦屋川からのぞむ六甲山など美しい風景を描いたデザインで応募件数286点の中から小中学生の投票で選ばれました。

ごみの減量を目指し、指定ごみ袋制度の導入は、全会一致で可決されました。ごみ袋の色は白半透明になります。サイズは45リットル、30リットル、10リットルの３種類。製造・焼却時に発生するCO_2排出量を10%以上削減する効果がある素材を使用し、ごみ処理価格を上乗せして割高になる「有料化」は行いません。10月からは指定ごみ袋でないと収集されなくなります。

市最南端に位置する南芦屋浜の護岸では台風による破損や釣り客のマナーが問題となり、長らく釣りを行うことができない状態でした。護岸工事が完工し、約1年半が過ぎた昨年10月下旬から今年5月中旬まで「試験開放」として、一部護岸で釣りを行うことが可能になっています。私は護岸を多くの方々に利用していただくべきだと考えていますが、あくまでマナーを厳守して利用することが肝要と考えます。

南芦屋浜護岸　試験的に再開

悪質利用者には条例適用も

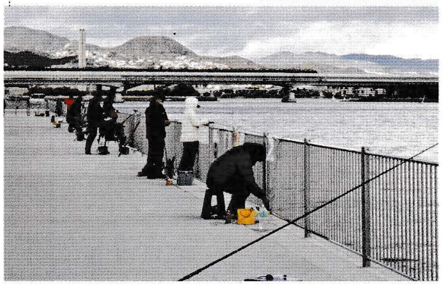
一般質問ではゴミ放置などについては罰則や過料を課したマナー条例を適用することで、健全な利用を促すよう求め、市は「マナー啓発・見回りなどを踏まえたうえで、条例の活用も考えていく」と答弁しました。

護岸工事前の利用状況としてはゴミや釣り餌の放置による臭いやカラスの被害、火を使った行為や違法駐車、騒音などの迷惑行為が見られていました。

試験開放後において、市が把握している迷惑行為としては、周辺道路や住宅地内に車やバイクが駐車するといった報告が上がっているといいます。この報告を受け、早朝の開放時間を午前6時から同8時に変更しています。かつては設置されていたゴミ箱があふれ、美観衛生的にも問題となっていましたが、今後はゴミ箱を設置せず、ごみを持ち帰ってもらうよう啓発を進めるとしています。

マナー条例では「潮芦屋ビーチでの花火」「芦屋川流域でのバーベキュー」「市内4駅周辺での指定場所以外での喫煙」などが禁止されています。私は周辺住民の住環境を守るためにも、釣り客のマナー違反には厳しい罰則を設けるべきだと考えており、今後も釣り客のマナーと条例の在り方について議論を深めていきたいと考えています。

マナー啓発が実施されている南芦屋浜護岸


試験的に開放されている南芦屋浜護岸。多くの釣り客でにぎわうが…

潮芦屋ビーチのスポーツ活用

市「年度内決着」

活気再生　迎える正念場

かつてビーチスポーツが盛んに行われていた南芦屋浜の人工砂浜「潮芦屋ビーチ」。私は早期のスポーツ利用再開と活用を求めてきましたが、今回の一般質問で市は「スポーツ団体や住民を含めた協議会を開き、年度内に協議をまとめる」としました。昨秋には3千人を超える人々から、ビーチの活用を求める署名が市に届けられております。問題を先送りすることなく、活用に向けた議論を前に進めるよう求めてまいります。

昨年6月の一般質問では護岸工事が終わって1年以上が経過しているにも関わらず、ビーチが活用されていない現状を憂い、市に対し現状把握と早期活用の開始を求めました。その際、市内の学生がビーチでストレッチを行っていただけで指定管理者から退去を命じられるという「行き過ぎ」とも言える管理体制も確認。市は「スポーツ団体と住民、県、市をまじえた協議会で活用ルールを議論したい」としていましたが、昨年末の時点では協議会は開かれておりません。この状況が続けば市答弁の信頼性が揺らぎかねないため、再度の質問となりました。

そもそもビーチでのスポーツ活用を制限する理由はどこにあるのか、あいまいなまま放置されているのが現状です。活気あふれるビーチとして再生できるのか正念場を迎えています。

スポーツ活用が求められる潮芦屋ビーチ

編集後記

10年ほど前、冬空の下で繁華街に集う子供たちを取材したことがある。家庭や学校という逃げ場を失った子供たちは誰かとつながりたいと繁華街に繰り出していた。今では、スマホを使ったチャットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）にも逃げ場や安らぎを求めているのだろう。不登校や中高年の引きこもりも増える中、誰もが居場所を持てる社会を目指すために打つ手は何なのか。具体策を早急に考えていきたい。

【川上朝栄（かわかみ・あさえ）プロフィル】

1973年12月生まれ、49歳。妻と娘2人の4人家族。岡山白陵高校を経て、学習院大学経済学部卒業後、産経新聞社に記者として入社。内閣府や東京証券取引所キャップ等を務め、政治経済の現場を取材。著書に「関西経済大研究」「達人の世界」（産経新聞出版、共著）。趣味はテニス、スキー。高校野球鑑賞。資格：社会福祉主事、介護職員初任者

Facebook

Twitter

e-mail：kawakamiasae@gmail.com　HP：https://kawakami-asae.com